

国際社会学部

巽 由樹子

Yukiko Tatsumi

地域社会研究コース／ロシア地域

歴史学

研究紹介

高校時代、ドストエフスキーが暗すぎてどうしても読み通せなかったことから、はたして刊行されたのはどういう時代で、当時のロシア人は本当に読めたのかと素朴な関心を持ち、大学院で近代ロシアの出版・読者史の研究を始めました。偽ツァーリ出現から農奴解放、社会主義革命、スターリン崇拜、ペレストロイカ、そしてウクライナ侵攻まで、ロシアでは歴史上、極端な思想や行動が見られます。なぜこの地域ではそうした事象が広がるのか、いかなる階層・民族の人々にどのように情報やイメージが共有されていくのかを考えるため、帝政期から現代までの雑誌、新聞、本、テレビといった、ロシア・メディアの歴史的研究に取り組んでいます。

ロシア史ゼミ

中世から現代までのロシアの歴史について、ゼミ生の関心に応じた論文・専門書の講読と、各自の研究発表によって理解を深めます。また、歴史学の方法論を身につけるため、ゼミ生は帝政期からソ連期にかけて刊行された新聞・雑誌の現物を1点ずつ選び、一次史料として分析することにも取り組みます。

卒論

- 歴史小説と学術的テキストとの関係性—アンリ・トロワイヤ『女帝エカテリーナ』から見る歴史学と文学の二面性
- 芸術分野においてスラヴ主義は継承されたのか—アブラムツェヴォ及びタラシキノとネオプリミティヴィズムの比較考察
- ロマンティック・バレエの後世における影響—クラシック・バレエと比較して
- 移住法とシベリア鉄道委員会 1889-1904
- ソ連における科学研究の自立性とその限界—1925年-1942年の科学雑誌から読み解く
- グローバル化時代における現代ロシアのメディアについての考察—風刺アニメ3作品を通じて
- 「ルースキー・ミール」の中の移民—ルースキー・ミール財団の移民に関する取り組みの分析
- 現代ロシアにおける若年正教徒の実態



担当授業

- ロシア・メディア史
- ロシア帝国史
- 歴史社会研究入門
- ロシア語を歴史的演説で学ぶ

関連する分野

- 知識社会史
- 文化史
- 出版・メディア研究

出版物

書いた本

- 『ツァーリと大衆—近代ロシアの読書の社会史』
- Publishing in Tsarist Russia: A History of Print Media from Enlightenment to Revolution
- 'Obshchestvennost' and Civic Agency in Late Imperial and Soviet Russia
- 『ロシア帝国の民族知識人—大学・学知・ネットワーク』
- 『ウクライナの装飾文様』（近刊）

訳した本

- 『ナターシャの踊り—ロシア文化史』
- 『〈遊ぶ〉ロシア—帝政末期の余暇と商業文化』

